

今後の活動紹介

第11回 0歳児からの音楽会

日時：2026年3月26日（木）

①10：00～ ②13：00～（2回公演）

演奏：「Wa.corda」（ワコルダ）

バイオリン 小倉浩晃

コントラバス 小倉充子

ピアノ 高山陽子

場所：わかやま市民生協本部2階

E*KAOホール

（和歌山市太田三丁目10-10）

参加：無料

※詳細についてはホームページにて、ご案内します。



和歌山県

生協連ニュース

No.25



和歌山県生活協同組合連合会
TEL.073-474-9095 FAX.073-474-8649
https://www.wakayamakenren.jp/



新年のごあいさつ 会長理事 阿部 秀二郎

新年あけましておめでとうございます。

旧年は、国連が定めた「国際協同組合同年」であり、私たち協同組合の活動が注目された年でした。また戦後80年という節目の年でもあり、平和について考えるきっかけとなる年でもありました。

和歌山県生協連では、県内11の生協がつながり県民のくらしと健康を守る社会的課題にとりくんでいます。特殊詐欺などの消費者被害の総額は年々増えています。この現状を防ごうと消費者ネットワークわかやまと協力し、旧年は、御坊市、橋本市、紀の川市にも協力をよびかけ、共催することができ、多くの市民の参加がありました。

このほか、旧年ははじめて和歌山県生協連が主催となりさまざまな団体によびかけ「第42回生協まつり」を開催することができました。

12月に開催した「第35回生協大会」では、「南海トラフ地震に備える」をテーマに記念講演を行ないました。協定を締結する「和歌山県災害ボランティアセンター」にも参加をよびかけるなど協力しています。ひきつづき和歌山県などが主催する防災訓練などに参加し、もしもの時に備えていきます。

和歌山県生協連では、県内の協同組合はもとより、行政や大学など地域に根ざしたさまざまな組織とつながり学び合うことで、地域課題の解決力を高めたいと考えます。

今年もどうぞよろしくお願いたします。

2025年度の活動紹介

第35回和歌山県生協大会を開催しました

2025年12月4日、第35回和歌山県生協大会をわかやま市民生協E*KAOホールにて開催しました。

生協大会は、年に一度和歌山県生協連の会員生協の役職員・組合員が一堂に会し、交流と連帯を深め、県内における生協活動の発展につなげることを目的に開催しています。ハイブリット(会場とオンライン)開催で67人の参加がありました。

一部式典では、阿部会長理事の挨拶、続いて臨席ご来賓の中から、和歌山県環境生活部生活局県民生活課長 笠松直紀氏、和歌山県農業中央会専務理事 前田年史氏、和歌山県労働者福祉協議会会長 山本龍一氏、日本生活協同組合連合会関西地連事務局長 村上毅氏の4名よりご挨拶をいただきました。



20年永年勤続表彰では県連の会員生協で通算20年以上勤務された9人の功勞に対し、表彰状と記念品を贈呈しました。

二部の記念講演は「南海トラフ地震に備える」と題し、京都大学防災研究所教授（防災心理学専門）の矢守克也氏に講演いただきました。

30年以内の発生確率が60～90%といわれる南海トラフ地震が起こった場合に、普段避難訓練に参加できない人（要支援者）にどう訓練してもらおうかという視点で、各地で行われている訓練内容を紹介いただきました。少しでも助かるために動くことが大切であり、そのことが救助者の命を守ることにもつながるとの説明もありました。

また、自分が居る場所で地震による津波が起こった場合に、どこに逃げるかを訓練できる「逃げトレ」アプリの案内もあり、集団で行なう訓練には参加しづらい人も個人でできる新たな訓練方法について提案がありました。



ホットな消費者見守りニュース104号

～消費者被害にあわないための最新情報をお届けします！～

ホットな消費者見守りニュース 104号

+(国番号) から始まる国際電話番号に注意!

- アドバイス**
- 国際電話番号（+1や+44などから始まる電話番号）を利用した特殊詐欺の被害が多発しています。
 - +以降の数字は国コード（国番号）と呼ばれるもので、「+81」は日本の国コードですが、詐欺の可能性もあるため、注意が必要です。
 - 見知らぬ電話番号からの着信は無視し、折り返しの電話もしないようにしましょう。
 - もし電話に出てしまった場合、個人情報絶対に伝えないようにし、少しでも不安を感じたら、消費者ホットラインや警察（☎#9110）に相談しましょう。

和歌山県消費生活センター
和歌山市手平2丁目1-2
県民プラザ和歌山ビッグ愛8F
電話：073-433-1551
FAX：073-433-3904
(月～金)9:00～17:00
(土・日)10:00～16:00(電話相談のみ)
(祝日・年末年始を除く)

和歌山県消費生活センター 紀南支所
田辺市朝日ヶ丘23番1号
県西牟婁総合庁舎内
電話：0739-24-0999
FAX：0739-26-7943
(月～金)9:00～17:00
(祝日・年末年始を除く)

※短縮ダイヤル☎188でもお近くの相談窓口につながります。

協同組合がよりよい社会を築きます

和歌山中央医療生活協同組合・わかやま市民生活協同組合・和歌山県学校生活協同組合・和歌山県労働者共済生活協同組合
オレンジコープ(泉南生活協同組合)・紀の国医療生活協同組合・和歌山大学消費生活協同組合・和歌山県立医科大学生活協同組合
和歌山高齢者生活協同組合・メルスィー生活協同組合・生活協同組合コープ自然派おおさか

和歌山県へ要望書を提出し、回答書を受け取りました

毎年、県政の充実強化につながる施策提案や連携、会員生協の事業・運営に関する支援と理解促進を目的に和歌山県に要望書を提出しています。2025年10月2日に和歌山県環境生活部 湯川部長に、阿部会長理事から手渡しました。

12月2日には、横畑生活局長より回答書を受け取った後、担当課より、「医療政策について」「福祉・介護・子育て支援施策について」「消費者行政について」などの説明をいただきました。



湯川部長(左)に阿部会長理事から要望書を渡しました。

<今年度の主な要望事項> ~新たな要望事項中心に~

1. 消費者行政について
 - ・「消費者安全確保地域協議会」の設置状況と今後の推進について
2. 医療介護行政について
 - ・光熱費や材料費等の高騰分に対して恒常的な財政支援の検討を要望
3. 防災対策について
 - ・南海トラフ巨大地震や記録的豪雨等に備えた災害対策の充実
4. 福祉・介護・子育て支援施策について
 - ・買い物困難者への対応と生協の宅配事業の対応について、地域でのこども食堂支援要望、不登校児、ひきこもり支援
5. 食品安全行政について
 - ・食中毒予防に向けて情報発信および指導啓発の強化
6. 食育について
 - ・家庭及び事業所での食品ロス削減の推進を要望
7. LGBT理解増進法施行の対応について
 - ・県パートナーシップ宣言制度の周知強化
8. 生協の取組に対する理解促進のための知事との懇談
9. 県生協連、会員生協の事業や運営等に関する支援について

役員研修会：和歌山県の施策や6つの人権について学びました

2025年9月26日(金)、和歌山県人権施策推進課副課長の若林和美さんを講師に招き、「和歌山県における人権施策」について28人が学びました。

2002年施行の「和歌山県人権尊重の社会づくり条例」にもとづき、2004年に策定した「和歌山県人権施策基本方針」を策定。おおよそ5年ごとに改定を行ない現在「第四次改定版」が作られていることや、さまざまな条例を策定していることを紹介いただきました。また和歌山県人権啓発センターでは、人権相談・法律相談を行なっていることのご案内もありました。

DVD視聴では、職場などで起こる6つの人権(ハラスメント、外国人、働き方、いろいろな性、障害者、部落差別)をテーマに、相手の想いを聴くこと・自分の想いを伝えること・お互いを受け止めあうことの大切さを考える内容でした。参加者からは「誰にでもわかる方法で伝えることは外国人だけでなく、今の職場でも活用できる」など意見がありました。休憩後のグループワークでは、会場参加者7人ずつに分かれ、和歌山県提供の「無意識の思い込み(アンコンシャスバイアス)セルフチェック30」を各自行ない、自分の考え方の癖や価値観を改めて見つめ直すきっかけになりました。グループワークでも自分の気づきや講義やDVD視聴で感じたことを交流しました。

参加者からは、「自分の中の無意識の思い込みがとてもしっかり存在する事を認識して、びっくり」「今なお続く差別問題など、人権問題って、一人一人が学習し理解しないといけない事なんだと思いました」など、それぞれの気づきがありました。



国際協同組合年の今年、「第42回生協まつり」を県連主催で開催

2025年10月5日和歌山城砂の丸・西の丸広場で「第42回生協まつり」を、県内の協同組合間の協同をさらにつよめるため、今年度より4単協実行委員会が主催していたものを和歌山県生活協同組合連合会が主催することになりました。

国際協同組合年の今年、「第42回生協まつり」は、協同組合の理解促進と認知度向上、協同組合のSDGs達成への貢献、協同組合等の連携促進として「2025国際協同組合年全国実行委員会認定事業」として、より多くの協同組合やさまざまな団体が集まり開催することができました。協同組合年ブースでは、「国際協同組合年とは」・「県内の協同組合の活動」を紹介しました。

残念ながら、昼前からの雨で人出はのびませんでした(主催者発表2.5万人)、和歌山のみなさんに、協同組合について知らせる良い機会となりました。



「第45回労働者福祉まつり」で焼き鳥販売と能登半島地震支援商品販売

2025年11月29日、「親子で楽しい1日を過ごそう!」をテーマに、和歌山城西の丸広場を中心に「第45回労働者福祉まつり」が和歌山県労働者福祉協議会主催で開催されました。

和歌山県生協連は焼き鳥販売と能登半島地震を支援する商品の販売、活動紹介の展示を行ないました。来場者数は3,500人でした。(主催者発表)

当日は晴天に恵まれ、多くの参加がありました。焼き鳥200パック(5本入300円)は、13時過ぎに売り切れました。

そのほか、コーすけ、コピーの着ぐるみが会場を盛り上げました。

